

生ごみ処理容器(コンポスト)の 上手な使い方とコツ

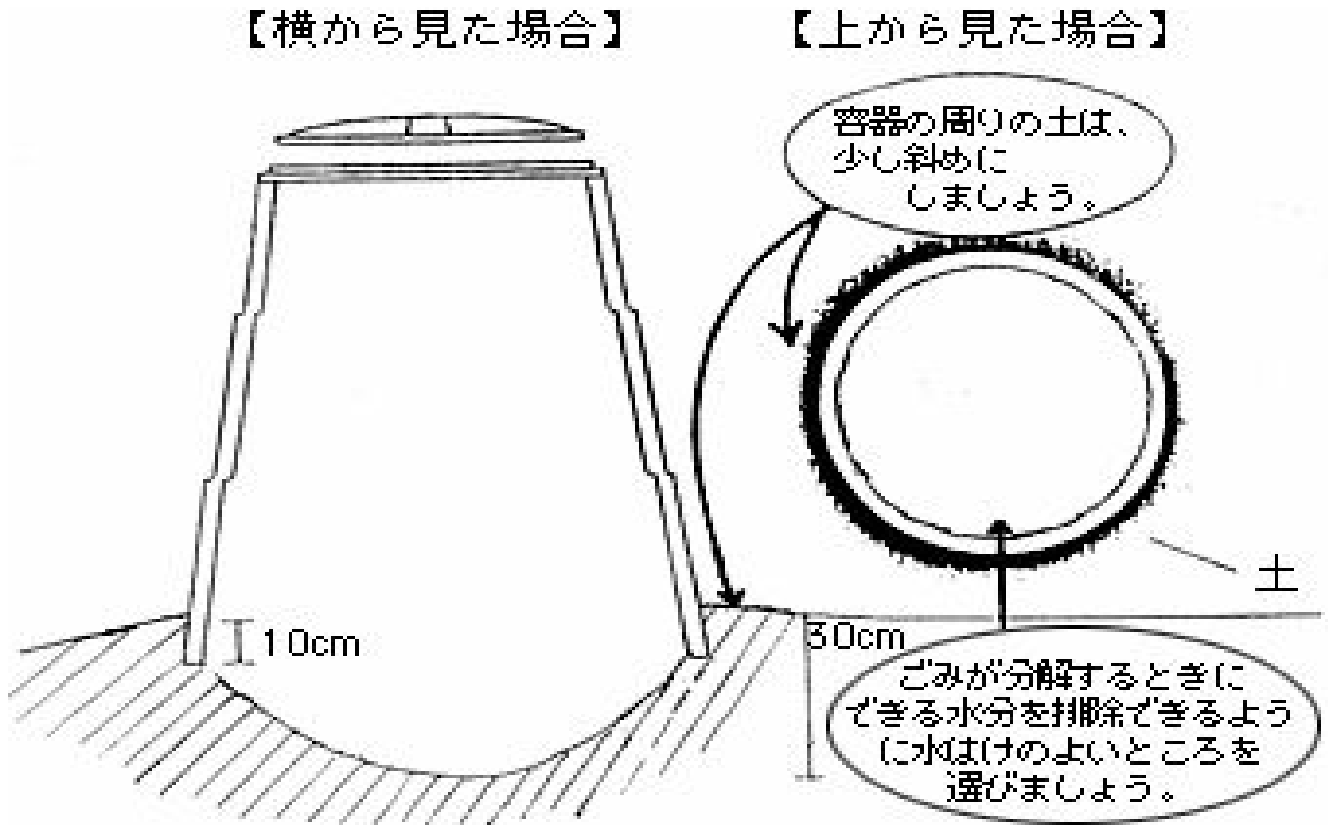
— コンポストは、地の中の微生物の力で生ごみを堆肥にします —

1. まず場所選び

- 南側で日当たり・排水・風通しのよい場所を選びましょう。

2. 容器の設置

- 水はけのために穴を掘りましょう。
 - (1) 容器の直径の大きさと深さ 30 cm位の穴を掘ります。
 - (2) 容器の周りの土は少し斜めにし、外からの水が入らないようにします。



3. さあ、生ごみを入れよう

- 生ごみを中心に次のようなものを原料にしてください。

◇生ごみ

野菜くず、お茶がら、コーヒーかす、残飯、魚のあらなどが、堆肥の主役です。よく水切りして入れてください。（強く握ったときわずかに水が出る程度。）

◇雑草・落ち葉・剪定くず

肥料の材料や生ごみの水分の調整にもなります。

雑草は5~10cmの長さに、剪定くずはできるだけ細かく切って入れてください。

4. 土でサンドイッチ

- 生ごみが10cm位になったら乾燥した土を1cm位入れましょう。

土は、ウジやハエの発生を防ぎます。（乾いた土ではハエの卵はかえりません。）

5. 切り返して空気を補給

- スコップなどで1週間に2~3回くらい切り返しをしましょう。微生物の住む層をよく混ぜることで微生物の活動が活発になり、生ごみの分解が早くなります。

6. 堆肥のできあがり

- 容器が満杯になったらごみの投入をとめ、ふたを閉め放置します。強い臭いがなくなったら（夏場で2~3ヶ月、冬場なら4~6ヶ月）出来上がりです。容器から堆肥を取り出し、1日程度広げて乾燥した後にお使いください。

【トラブル解決 Q&A】

Q. ウジがわくので殺虫剤を使いたいのですが・・・

A. まず、ハエがこないように容器のふたをきちんと閉めましょう。殺虫剤は使いすぎると堆肥の中にその成分が蓄積しますのであまり好ましくありません。殺虫剤の代替えとして殺虫効果とともに肥料として効果のある消石灰を使いましょう。

Q. 容器内の水分が多く悪臭がするのですが・・・

A. 乾燥した雑草や落ち葉を入れましょう。また、容器底面の水はけを再度チェックしてください。

